

第1回壮警町町づくり審議会会議結果

■日 程 令和元年8月29日(木曜日) 午後6時30分～午後8時30分

■場 所 壮警町役場 2階大会議室

■出席委員 会 長 清水 修
副 会 長 木村 大作
委 員 川南 恵美子 高橋 仙行 土屋 知実
富田 和也 中山 茂樹 藤澤 憲隆
松原 宣彦

■欠席委員 柴田 暦章

■役場出席者 企画財政課長 上名 正樹
企画財政課主幹 作田 宏明
企画財政課係長 武岡 忍
企画財政課主事 谷永 直樹

- 会議次第
1. 委嘱状交付
 2. 町長あいさつ
 3. 審議会委員紹介
 4. 審議会長及び副会長の互選について
 5. 諮問
 6. 諮問にかかわる審議について
 - (1) 現総合計画の取組と評価及び次期総合計画の視点について
 - (2) 策定体制について
 - (3) スケジュールについて
 7. 町民アンケート結果について
 8. まちづくり懇談会について
 9. その他
 10. 閉会

1. 委嘱状の交付

町長から委嘱状の交付

2. 町長あいさつ

○町長 : 日頃より、町政運営にご理解ご協力を賜り、厚く感謝申し上げます。また、策定期間中、大変お忙しいところではあるが、お力添えをよろしくお願ひしたい。それに加え、委嘱をお受けいただき、重ねて感謝申し上げます。今年度は令和2年度を初年度とする10か年の計画、町の最上位計画となる第5次まちづくり総合計画を策定する年である。年度内に策定するために作業を開始しており、第4次計画の評価、6月には町民アンケート調査、8月には10会場でまちづくり懇談会を実施し、87名の参加をいただいている。また、昨日、一昨日は、職員対象に「まちづくりのあゆみ」を振り返る勉強会を開催し、認識の共有を図ったところである。まちを持続可能なものにしていくためには、健全財政のもと、人口減対策、地域格差の是正、産業の振興、子育て、安全で安心な老後などがキーワードになってくるものと認識している。審議会の委員は、それぞれ専門的な知見を有しているので、皆さまの考えを最大限策定に活かし、具体的かつ実行性のある施策を財政計画の裏付けのもとで位置付け、確実に実行していかなければならないと認識している。皆さまには、計画の策定、樹立までよろしくお願ひしたい。

3. 審議会委員紹介

川南委員から順に自己紹介をしていただいた。

4. 審議会議長及び副会長の互選について

会長に清水修委員、副会長に木村大作委員が選任された。(事務局案)

5. 諮問

町長から清水会長に諮問。

6. 諮問にかかわる審議について

- (1) 現総合計画の取組と評価及び次期総合計画の視点について
- (2) 策定体制について
- (3) スケジュールについて

事務局から説明

7. 町民アンケート結果について

事務局から説明

○審議会委員 : 先ほど、説明があった23ページについて、カラーで印刷して配布していただきたい。

○町 : わかりました。

○審議会委員 : アンケートの質問ではないが、よろしいか。

○審議会会長 : 問題ない。

○審議会委員 : 先ほど説明のあった次期計画の視点のところ、中小企業の経営基盤強化と道の駅を核とした販売促進とあるが、東湖畔トンネルが開通して、壮瞥町の中心部に流れてくる人が減っている。特に6月7月8月。コンビニではどういふお客様が増えたり、減ったりしているのかを分析している。結果として、道の駅もそうだ

し、中心部で商売をしているところに人が流れてこなくなっている。例えば、トンネルに曲がる交差点のところに道の駅はここから1キロ、コンビニは2キロみたいな看板を設置してもいいのではないか。また、トンネルを通過して湖畔に出ても、出た先があそこなので、洞爺湖に行きたい人は混乱すると思う。そういう混乱もあるし、中心部に来ると人が少なくなっているというのも問題だと思っている。人が流れてくるようなことをやっていかないといけない。ただ、防災のためのトンネルということではない。もう一つはSNS関連のトラブルで、問題を防ぐための方法を親がすべて教えることができるものではない。学校でも限界がある。昨年、PTA連合会が企画した講演会では、ネット社会におけるトラブルやSNS等を利用したトラブルを防ぐ方法などを勉強した。子どもだけではなく、保護者に教えることも大事で、私も専門の詳しい先生を知っているので、保護者向けの講演会や懇談会等をやっていただきたい。田舎だからあまり関係ないという問題ではないので、検討していただきたい。

- 町 : トンネルができて中心部に人が来なくなったということだが、どちらから来る人がどちらへ行ってしまおうとかはあるのか。
- 審議会委員 : 美笛方面から来て矢野果樹園の前に看板があるので、そこで曲がってしまう人が多い。また、果樹園に来て、そのままトンネルを抜けて行ってしまおうパターンもあるが、大きいのは美笛方面からの流れである。
- 町 : 分岐のところに、案内看板があれば、流れも変わってくると思うので、車の流れ等も研究して考えていきたいと思っている。SNS関連の講演会については、教育委員会と情報を共有していきたい。

8. まちづくり懇談会について

事務局から説明

- 審議会委員 : 人口減少はどこ自治体でも問題になっている。しかし、壮瞥町がどのような方法で移住定住対策をPRしているのか、あまり町民はわかっていない。主にHPになるのか。
- 町 : HPやSNS等で情報を掲載しているが、なかなか人口減少に歯止めがかかっていない。人口減少はある程度しかたがないので、その減少幅を少なくしたいと思っている。今年度は、空き家対策に力を入れて、移住者を発掘していきたいと考えている。
- 審議会委員 : アンケートを見ていると、土地がないと感じている人が多い。
- 町 : 町は、移住対策として子育て応援住宅の建設や延長保育の導入など、いろいろな施策を実施してきた。しかし、まだ施策としては完成していない。それは、分譲地がないからである。なぜないかという、壮瞥町は農地が多く法律上、農地を住宅地とすることが難しいからである。町有地を活用できればいいが、なかなか手立てができなかったのが現状である。
- 審議会委員 : 今後の見通しもそのような感じなのか。
- 町 : 旧庁舎跡地あたりを、分譲地として売ることは考えられるが、面積を考えると一団としてはならないと思っている。やはり土地を持っている方にうまくアプローチをして、どのようにご協力していただくかというのが今後の課題である。それと、企業誘致はなかなか難しい。たまたま壮瞥町は、ホテルを開業していただけた話があるので、その従業員の方々に住んでもらって、先ほど課長が申し上げたように人口減少を穏やかにできればと思っている。
- 審議会委員 : 私は、役場のすぐ近くで農業を始めた。町内でも良い場所でやらせてもらって

る。しかし、同じ地区に耕作していない土地が見受けられる。その場所は、まちの中心に近くて、農地としても一等地なのに、耕作していないというのは、あまりにも、もったいない。あれを活用しないと、せめて耕作をしないと、と思っている。そのへんも町で何とかできたらなと思っている。

- 町 : 本当に優良で平らで道路に面している土地で、耕作されていない土地が滝之町にはある。町からは利活用をしてくださいとは言えるかもしれないが、なかなか難しい。農業委員会が現状を調査して、所有者に対し、指導をしていくというのが、農業委員会の役目である。それと農地と分譲地は相反することである。道の駅の後ろの農地も当初、分譲地にしたいという考えはあったが、農業委員会や振興局との協議の中でだめになってしまった。ただ、そうは言っても、今言われたような話があることを言っていないといけない。何もしないで放置するのはいいことではないので、耕作するのか、住むところなのか、そういう方向性を話していないといけない。所管課と共有させていただきたい。
- 審議会委員 : 例えば、遊休農地を農業法人化すれば、企業誘致したことになる。そこに、例えば高校生が就職するなど、そういったことにアイデアや応援する手段があれば、どうなのかなと感じた。働く場所がないというのがアンケートにもあった。農業法人化は農業委員会の所管となるのか。
- 町 : 産業振興課である。農産物の加工業ということでは、今ブロッコリーの部分では久保内でやっているところもあるし、会社として何かをつくりたいという話も伺っているところであるので、支援は必要だと思っている。
- 審議会委員 : 私も規模拡大を考えている。そういうのもあって耕作していない土地がもったいないと思っている。会社を設立して、壮瞥高校の卒業生を雇って大きくしていきたいと思っている。そこで、寮もつくって、住んでもらってというのも考えているので、町も応援していただければと思う。
- 町 : 非常にいい話だと思うので、関係課と協議してできる部分については、検討させていただきたい。
- 審議会委員 : そういう休んでいる土地を活用しませんかとお声掛けするときに、話やすい人と話づらい人はいるのか。
- 町 : 町ではそういうことはない。ただ、自分の土地が狭くなってしまうことには、抵抗があると思う。そういうところを、農業委員会から活用したい人がいるからどうなのかという話を持っていければなと思う。
- 審議会委員 : このあたりの農地は、昭和新山や有珠山が見えて、景色がとてもいい。関係人口を増やすことがとても大事だと思っている。壮瞥に関わる人を増やすことで、移住者増につながることもなると思う。今、休耕地になっているという話を聞いたが、札幌近郊だと、休耕地を区画割りして、自分の好きなものを植えてくださいと案内している。壮瞥でも休耕地を活用して、伊達からでも室蘭からでも人を呼んで畑をつくってもらい、月に何回か来てもらって、帰りは温泉に入ってもらおうとか、そういう人が増えればいいと思う。そういう利用の仕方があるのではないかと思っている。ほかにもコンビニに寄ったり、道の駅に寄ったりすることで、町内全体に良い影響があると思う。
- 町 : 関係人口については、木のオーナーになって来ていただいて、木を育てたり、実を食べたりしてもらうことで、関係人口を増やしているところもある。また、上士幌、標茶でもモデル事業として、関係人口を増やす取組をやっている。また、ふるさと納税の返礼品で、納税していただいてただ返礼品を送るだけではなく、まちに関わっていただけるような返礼品にすることで、関係人口を増やしているまちもあるので、壮瞥町でもそのような施策を考えていき、第5次の計画に位置

付けていけたらと思っている。

○審議会委員：第4次計画策定時では人口が減ることは想定をしていなかったと思う。今は日本全国で人口減少が問題になっていて、壮瞥町でも将来的には1700人程度になるというデータがある。そこで、第5次計画をつくるときに、人口を維持する方向の施策を進めていくのか、それとも増やす方向で進めていくのか。また、総合計画は最上位計画なので、個別具体的なことは置いておいて、大きな概念で位置付けていくのか。それとも今議論があったような事業を総合計画としていくのか。私は10年間では、トレンドは変わっていくので、変化した施策に対応できるような計画にしたほうが良いと思っている。私は産業振興に携わっており、産業振興は世の中の流れによってどんどん変わっていく。変化した施策に対応してまちの施策をやっていくと考えたら、柔軟な計画にしないと対応できないことになってしまう。そういうことを想定しているのかどうか教えていただきたい。

○町：人口については、増えるならば増やしたいが、増えることは考えにくいので、減り幅をできるだけ抑制する方向で考えていく。人口目標を立てるとしても、社人研が出したデータ等を参考にしながら考えていくことになる。人口ができるだけ減らないような施策を考えていく。総合計画は、総花的な構想にはなってしまうこともあるが、具体的な事業も盛り込めたらと思っている。基本構想は10年間を見通して策定するが、基本計画は5年間のスパンで立てるので、時代に合わせたものに見直すなどして、臨機応変に対応していきたい。町民からも、何がポイントなのかわかりづらいという声があったので、わかりやすいような計画にしていきたいと考えている。そのへんも踏まえて策定していきたい。

○審議会委員：一住民からすると個別具体策がないとわからないとなるが、計画なので、総花的なものにしなければならない。これをやりますなんて言ったら、それしかできないみたいになってしまうので、その葛藤があると思う。総合計画としては、総花的にしておいて、その具体策はこういうものがあるよねみたいなイメージを持っていて、そういう二つのバランスがあっているのかなと思っている。そうすることが硬直しない計画になると思っている。そういう私の思いがある中で、役場としてはどのような位置付けにするのかというのを共有できればと思って発言している。

○町：基本的には、総合計画は最上位計画なので、具体的にしてしまうとそれをやらないと何だこの計画はとなってしまう。だから、まちとしての方向性を位置付けて、今、松原委員が言われたようなアクションプランということで、こういうことをやっていくという形になるのかなとは思っている。

○審議会委員：2,500人の小さなまちなので、いろいろなことができる。いろいろなことができるようにしておかないといけないというのは私の中ではある。

○町：最上位計画なので、方向性を位置付けて、下位計画で実施していくというのもあると思うので、そのへんは柔軟につくっていったらと思っている。

○審議会委員：了解した。

○町：10年なので、どういう時代の変化があるかはわからない。実際、10年前につくった今の計画がすべて、今にマッチしているかといえばそうではないと思う。長期スパンの計画は難しい。逆に雁字搦めにしてしまうとそれしかできないとなってしまう。

○審議会委員：人口が減っていくのは、どこの町村でも一番の問題である。その中でも壮瞥町は女性の平均寿命が全国2位となっている。それでも、人を集めるのは無理だと思う。近隣では、洞爺湖町から豊浦町へ移住している人が多い。それは公共料金が安いからである。壮瞥町は観光と農業のまちで、農業は衰退していつている。農

業所得はどんどん減っている。農業所得が増えているのは洞爺湖町である。何が違うかというUターンの人が農業をやっている。洞爺湖町は新規の就農者がほとんどいない。もし、農家をやっている人がやめれば、隣の人がそこを借りて、農業をやる。だから、遊休農地はほとんどない。壮瞥町は担い手不足で就農者がいない。かと言って新規就農者はいない。研修する場所がない。住む場所がない。アフターフォローもない。何が言いたいかという、逆転の発想で、「住みづらい壮瞥町」ということで売れば、人は来るのかもしれない。何言っているかわからないが、若い人がいないと壮瞥町は盛り上がっていかないのかなと思っている。

○審議会委員：まちづくりは、地域の資源、特徴を切り口にしてどのようなまちづくりをしていくのかというのが大事。地域が発展すれば、町全体が発展していく。個々の地域ごとに考えていくのがいいと思う。地域の資源、良さを見出して、やったほうがいいと思っている。1年以上前から蟠溪まちづくり研究会というのをやっているが、皆さんの力を借りてやっている。それを何とか形にしたいと思っている。それこそ、地域と資源、特徴を切り口として、蟠溪を盛り上げていきたい。それを各地域ごとにやったほうがいいと思う。

○審議会委員：子育て応援住宅はできたが、最後、宅地部分の問題が残っている。壮瞥町は個人売買が多いので、そこが課題と捉えている。決して売れない土地ばかりではなく売れる土地もある。その需要をどのように掘り起こしていくのが課題である。うちも土地を持っており、売りたい土地と売りたくない土地もあるので、需要と供給のバランスでうまくいけばと思っている。最終目標の宅地ができて、公営住宅に住んでいる人が新築の家を建てたり、外から移住してきたりしてもらえたらいいと思っており、それを目指していきたい。もう一つ考えているのもあるが、それは次回お話ししようと思っている。

○審議会委員：コミュニティタクシーの利用規約というものはあるのか。

○町：ルールはある。伊達は病院しか使えないということがある。

○審議会委員：紙になっているものはないのか。

○町：利用方法を記載されたチラシがある。利用するためには、事前に登録をしていたらいいから、毛利ハイヤーに電話をしていただく。

○審議会委員：病院でも買い物でもいいのか。

○町：町内は何でも利用できる。町外は通院だけである。

○町：町外への買い物にコミュニティタクシーを使えないかという声がある。ただ、道南バスが運行しているので、町が運行することはできない。道南バスが成り立たなくなってしまう。基本的には病院へ行くために使っている。

○町：伊達へ買い物に連れていってもらえないかということと、土日の運行をしてもらえないかという声はあるが、なかなか難しいとは思っている。伊達で買い物をすることをよしとしてしまえば、町内の業者の経営を圧迫してしまう。

○審議会委員：フィンランド派遣は継続することになっているのか。

○町：検討中である。

○町：毎年行くのを隔年にするのか、辞めるのか、そのへんも含めて検討している。

○町：来年度で現行制度の派遣は終わりとなっている。

○審議会委員：フィンランド派遣にかかる経費の内訳は見せてもらえるのか。

○町：経費は、日程や人数等で、いくらかかるのかということで、入札をして委託している。例えば、20人を何泊何日で、ヘルシンキで何泊、ケミヤルヴィ市で何泊、それでいくらかという形で入札している。町が積算した設計価格よりは、高く落ちることはないが、今言われたような一人当たりいくらかではなく、何人でいくらというふうになっている。

- 町 : 参考までに30年度は、1,400万円程度となっているが、子どもの数によって変わる。
- 審議会委員 : 交通が不便とアンケートでもあるが、伊達まで15分だし、コミュニティタクシーを使って、滝之町まで行ってバス乗って伊達に行くとしても1時間ぐらいだと思う。反感を買うかもしれないが、札幌にいても、買い物するために大きいところに行くためには、そのぐらいかかる。車を持っていけば伊達まで15分で行ける。バス停まで100円で行けると考えるとどうなのかなと思う。
- 町 : 人によってそれぞれだとは思いますが、交通の便が悪いというのは、本数が少ないというのも大きいと思う。
- 町 : そもそもコミュニティタクシーは、弁景や幸内などの方々がバスに乗りたくても乗れないので、交通の空白部分を補完するというのが考え方で、そういう方々をバス停まで運ぶから国からお金をもらえる。
- 町 : 国からは、300から400万円ほどもらっている。町は1,000万円負担している。
- 町 : 通院便に関しては、国からの補助はもらえない。
- 審議会委員 : 高齢者の運転が社会問題になっている。その部分について、自治体がこのようにやりますよというものに対しての補助金はないのか。
- 町 : 聞いたことはない。
- 審議会委員 : 小さいまちだからやりやすいということを言えば、免許を返納してくれた人に、こういうシステムを導入しますというのがあれば、住みやすい壮瞥というふうになる。
- 町 : 人口が少ないからできるということでは、中学生までの医療費無料化がある。町民が住みやすいようなまちづくりの施策を考えていくのも手である。

9. その他

- 町 : 今後の予定は、第2回会議は11月上旬、第3回会議は11月下旬を予定している。そのあとは、1月2月に1回ずつで計5回の予定をしている。次の会議では、素案をお示しすることができると思っているので、それに対してのご意見をいただければと思っている。